

ウメ輪紋ウイルス（プラムポックスウイルス）とは

1. 特徴

モモ、スモモなどの*Prunus*属の植物に広く感染する重要な植物ウイルスであり、1915年にブルガリアで発見されて以来、欧州、アジア、北米、南米等でも確認されている。

これまでウメへの自然感染の報告はなかったが、2009年に東京都青梅市で初めて確認された。

2. 感染経路

アブラムシにより媒介されるほか、穂木や苗を経由して感染する。生果実は感染経路にはならないとされている。

3. 症状・被害

モモやスモモでは、葉に退緑斑点や輪紋が生じるほか、果実の表面に斑紋が現れ、商品価値が失われたり、成熟前の落果により減収するとの報告がある。

ウメでは、葉に退緑斑点や輪紋が生じるほか、花卉にブレイキング症状（斑入り症状）が現れることもある。なお、これまでのところ果実への顕著な症状は見られていない。

4. 防除方法

アブラムシの防除の徹底、感染樹の除去、無病健全な苗の使用。

5. 宿主植物

*Prunus*属の果樹（モモ、スモモ、ネクタリン、アンズ、サクラ（オウトウ）など）、セイヨウマユミ、ナガバクコ、ヨウシュイボタなど

6. 主な発生国

アジア：中国、イラン、インド、トルコなど

ヨーロッパ：ブルガリア、ベルギー、フランス、イタリアなど

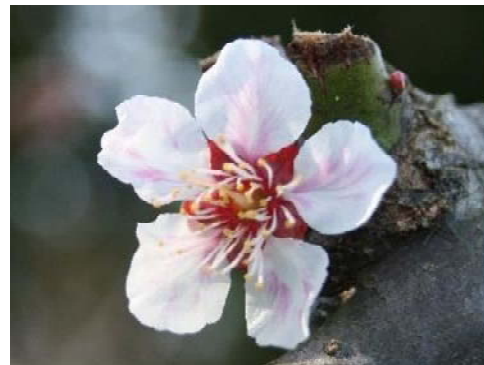
アフリカ：エジプト

北アメリカ：米国、カナダ

南アメリカ：アルゼンチン、チリ



ウメの葉の症状



ウメの花弁の症状